勤通大基礎理論スクーリングin しずおか

静岡県労働者学習協会静岡支部・静岡市社会科学学習会　　２０２１.11.2　No.5

「資本主義経済の仕組み」を学ぶ－４章

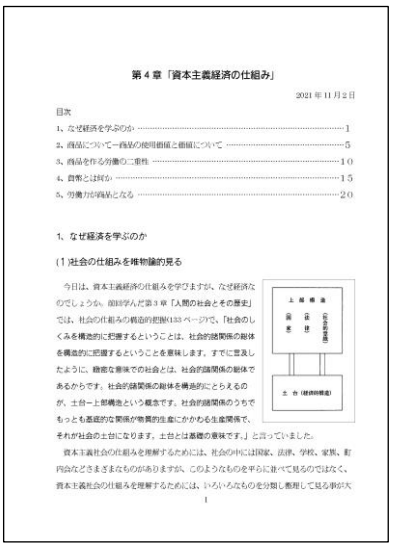
私たちの苦しみの根源は何か、その苦しみを解決する道筋は何か、それを明らかにする

11 月 2 日「アイセル 21」において、勤労者通信大学基礎理論コーススクーリングの第５回学習会が開催されました。今回の出席者は 6 名でした。

今回の範囲は、第 4 章「資本主義経済のしくみ」でした。報告者は、鳥居氏でした。

鳥居氏は、22 ページにわたる報告用のレジュメを作り、①なぜ経済を学ぶのか、②商品について－商品の使用価値と価値について、③商品を作る労働の二重性、④貨幣とは何か、⑤労働力が商品となる。の 5 点で詳しく報告しました。

また、テキスト第 4 章からの引用と合わせて『資本論』第 1 巻からも引用し報告しました。



第４章「資本主義経済の仕組み」

2021 年 11 月 2 日

目次

1、なぜ経済を学ぶのか……1
2、商品について－商品の使用価値と価値について……5
3、商品を作る労働の二重性……10
4、貨幣とは何か……15
5、労働力が商品となる……20

1、なぜ経済を学ぶのか

(1)社会の仕組みを唯物論的見る

今日は、資本主義経済の仕組みを学びますが、なぜ経済なのでしょうか。第10回学んだ第３章「人間の社会とその歴史」では、社会の仕組みの構造的把握(103 ページ)で、「社会のしくみを構造的に把握するということは、社会的諸関係の総体を構造的に把握するということを意味します。すでに言及したように、厳密な意味での社会とは、社会的諸関係の総体であるからです。社会的諸関係の総体を構造的にとらえるのが、土台－上部構造という概念です。社会的諸関係のうちでもっとも基底的な関係が物質的生産にかかわる生産関係で、それが社会の土台になります。土台とは基礎の意味です。」と言っていました。

資本主義社会の仕組みを理解するためには、社会の中には国家、法律、学校、家族、町内会などさまざまなものがありますが、このようなものを寄らに並べて見るのではなく、資本主義社会の仕組みを理解するためには、いろいろなものを分類し整理して見る事が大

1

報告後の討論では、「この報告を作るにあたり、テキストの中にはない価値形態論について若干入れている。そのために分かりにくくなっている面もある。ぜひ『資本論』の第一巻を学んでほしい」「報告の 18 ページに『価格のことを値段と言います。これは等価物に

稲が使われていた事の痕跡ではないかと言われます』と書いてあるが、これはどの様な事か」「報告の中に稲が一般的等価物として使われていたとある。稲の根が値段となったのではないか」「報告の中に昔中国では宝貝が一般的等価物として使われていた。その痕跡が『「貨」「財」「貯」「購」「貿」「買」「資」など、お金に関係する漢字に貝のつくものが多いのはそのためだ』とあるがなるほどと思った」「この記述は、日銀が運営している『貨幣博物館』での記述を根拠にしている」「貨幣について現代人は紙幣を使っている。昔 1 万円札を作るのに 14 円かかると聞いた。この紙幣が貨幣として流通しているが、金貨幣の登場までは報告に書かれているが、テキストの 161 ページには不換紙幣について書かれている」「法律による強制通用力は政府による信用保証があるために使用されている。国家の崩壊などにより保証が無くなると紙切れになってしまう」「賃金は労働力の対価なのか労働の対価なのか、この違いを押さえる事が重要と思う」「自分たちも自然に賃金は労働の対価と思ってきた。資本家に売るのが労働力である。これが掴めれば搾取の仕組みも分かる。剰余価値が資本主義社会を成り立たせている根幹、基礎であるこの事を掴む事をしないと、常に社会に対する見方が間違ってしまうこの事を学んだ」など意見が出ました。

12 月は第 5 章「資本主義と搾取のしくみ、資本蓄とその矛盾」を学びます。

次回勤通大基礎理論コーススクーリング

日時　12月7日（火）　午後6時30分～8時30分

場所　アイセル21　42会議室